

茂木一孝（社会神経科学），久世明香（行動発達），菊水健史（社会内分泌）

研究の背景

母のみが子に授乳するという子育て進化を遂げた哺乳類動物では、母子の関係性は子の成長に大きく影響します。マウスを用いた私たちの研究では、例えば人為的に一腹の兄弟の半分を通常より早く離乳させると、社会的行動やストレス応答性が通常時期に離乳されたマウスと異なるように発達することなどを明らかにしてきました。

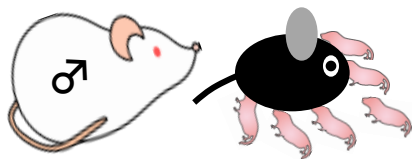


しかし母側の観点から、育子中に社会環境の大きな変化があった際、母マウスは子への行動をどのように変化させるのか？といった子育てサバイバル戦略の詳細はわかりません。

アプローチ

この研究プロジェクトでは、育子中の母マウスを対象として、育子中の巣に見知らぬ雄マウスが侵入してくるような危機的状況の場合、母マウスの子へ示す行動や内分泌系はどのように変化するか、その詳細を調べます。次に、母性行動の変化があるとしたら、それによって子の発達がどのように変化するのかも明らかにする予定です。

見知らぬ雄マウスの侵入



母マウスの変化：子マウスへのグルーミング、子マウスとの接触
といった行動やストレス内分泌の変化など



離乳した子マウスの変化：
成長後の社会的行動、
ストレス内分泌の変化など

期待される結果

1. 母動物は育子中の危機的状況に際し、子への行動をどのように変化させるのかがわかります。
2. 母性行動が変化する場合、そのことが子の成長にどのような影響を与えているのかも更に調べることで、母動物の子育てサバイバル戦略の意義を考察します。
3. 行動観察および解析技術・ホルモン測定技術が身に付きます。

募集方法

選抜方法：学業成績と面談により総合的に判断 募集人数：1～2名程度

行動観察・解析などの研究作業には粘り強く継続する根気強さが求められます。挑戦したいという意欲とともに、研究室のルールや時間を守ることができ、責任感がある方を募集します。